

びょうどうじ ちようせきごんぎようしだい
平等寺 朝夕勤行次第

毎朝六時
毎暮四時

まず だんぜん ふうらい
先 壇前普禮

〔経頭〕金二打。〔諸衆〕本尊の御前に対して身を正して合掌し、左腕に念珠を懸けて五体投地の禮を作すこと三度。普礼の真言に曰く、

おん ならば たぎや た
う び び び び び
はん な ま んな のう きや ろ み
ん

om sarvatathagatapadavandanam karomi. オーム（聖語）、私はあらゆる御仏の御足に礼拝する。

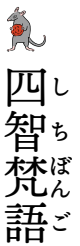
つぎ ちゃくざ
次 着座

〔諸衆〕正座し、衣紋繕い。袈裟・念珠・衣などを整理え、一度念珠を摺る。その後、護身法すること常の如し。

つぎ ごんぽう
次 護身法等如常

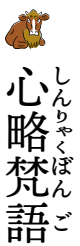
つぎ ぜんざん
次 前讃

〔讃頭〕朝・灑水発音。夕・金一打発音



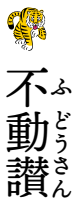
しちぼんご
四智梵語

鉢十五（朝は導師のみの場合、無鉢）



しんりやくぼんご
心略梵語

鉢三十（朝は導師のみの場合、無鉢）



ふどうざん
不動讃

鉢二十四（朝は導師のみの場合、無鉢）

次^{つぎ} 表白或いは願文^{がんもん}

〔導師〕奉読

（朝勤行）

敬白 眞言教主大日如來金剛界會三十七尊九會曼荼羅諸尊聖衆。竝大悲胎藏八葉蓮臺十三大院塵刹聖衆。殊には本尊聖者醫王善逝日光月光十二神將諸大眷屬、總じては佛眼所照恆沙塵數一切三寶境界而言

夫以みれば藥師如來と者、

本行菩薩道の初めには發すに十二の上願を以てし、
東方瑠璃界の際には導くに千萬の下愚を以てす。

内外明徹の恵光は能く惑業煩惱の闇夜を破し、

像末饒益の威力は廣大慈悲の願望を改むること無し。

是の故に藥壺を開いて祕法を施せば病患を速疾に除き

松算を與えて懇念に隨えば壽域を長生に全うす。

加之、一經其耳の少緣、尚お衆病悉除の功有り。

三業相應の懇請蓋ぞ轉業増壽の益を施さざらんや。

爰を以て護持法主、

今月今日壇上を靈地に儲け、六種の供具を設え、舉手低頭の禮敬を致して、
藥師如來の祕法を心門に修す。

然れば則ち、

護持法主 悉地成就

院内安穩 諸人快樂

別しては、

新型感染症物故者追善供養・新型感染症罹患者早期平癒

新型感染症醫療従事者・葬送従事者等身心安穩報恩謝徳

新型感染症被影響者身心安穩日常回復・新型感染症早期終息

災害犠牲者追悼・復興途上地早期復興成就

參詣者・巡禮者・リモート參拜者 身心安穩厄滅開運運氣龍昇一生大吉

護持施主 所願成就 乃至法界 平等利益

敬白

（神分）

(夕勤行・薬師如來名號讀誦會)

敬白 平等寺本尊薬師瑠璃光王如來名號讀誦功德回向之事

伏して惟れば三世諸佛出世の本懷は一切衆生成佛の指南なり。如來所説の八萬四千の法門は生死の苦海を渡す筏なりと。蓋し夫れ六大無碍の臺には迷悟同く優遊す。三密平等の床には生佛互に自樂す。之に迷者は長く三界の遊泥に沈み、之を悟る者は恆に五智の靈臺に遊ぶ。この故に諸佛、彼の六趣の塗炭を悲愍して拔苦の道を開き、菩薩は其の三途の沈淪を哀憐して與樂の法を示し玉ふ。ここに甚深廣大拔苦與樂の佛有り。所謂東方淨瑠璃世界教主、薬師瑠璃光王如來・醫王善逝是なり。始むるにおいて十二の大願を起し、就中、第七願に曰く、「我來世に菩提を得し時、若し衆生あつて、病に逼迫し、救いなく、頼りなく、醫療なく、薬なく、親なく、家なく、苦しみ多ければ、我の名號、一度其の耳を経れば、病悉く除き、身心安樂にして家屬資具、悉く皆豐足とし乃至無上の菩提を證得せしむ」と。ここに今日の法會は、高祖弘法大師のご誓願「一切衆生の身心を平等に癒やし去る」ため御作されし平等寺本尊薬師瑠璃光王如來御寶前に、新型感染症物故者追悼、罹患者平癒、醫療従事者身心安穩、事態の早期終息並びに護持信心の施主らの諸願成就を祈らなため、一座の法筵を開き、恆沙の名號・神呪を唱え、梵唄を奏し佛徳を讚す者なり。音聲即ち實相を顯す。生死豈に涅槃に非らざらんや。仰ぎ願わくば薬師名號功力を以て恣に自他圓滿の眞果を證得せんことを。依つて金盤を鳴らし過現名簿を唱えて回向すること左の如し。

一、奉爲三世覺滿十方賢聖淨佛國土成就衆生

一、奉爲弘法大師始奉三國傳燈諸大阿闍梨耶普賢行願皆令滿足

一、(ここでお申し込みのあつた祈願を讀み上げる)

一、爲新型感染症物故者追悼

一、爲新型感染症罹患者當病平癒

一、爲新型感染症醫療従事者身心安穩報恩謝徳

一、爲新型感染症被影響者身心安穩所願成就

一、爲新型感染症早期終息(等、時節に應じて追加)

一、爲三界六道有緣無緣諸精靈等乃至法界平等利益

右、唱へ擧る所如件

令和 年 今月 今 日 護持法主敬白

次

讀經

「経頭」金二打。「朝勤行」「理趣経」。「夕勤行」例時「般若心経秘鍵」、六の日の「観音経」、新月・満月「梵網経」、三と七の日の「金剛界禮讚」、八の日の「胎藏界禮讚」。



「理趣経」

「百字偈」

「朝勤行」「理趣経」の中で「百字偈」を讀誦。「夕勤行」「百字偈」の後に日に応じたお経を讀誦。

菩薩勝慧者

乃至盡生死

金剛薩埵

恆作衆生利

而不趣涅槃

菩薩の中にあつて特に優れた智慧ある者は、いつまでもこの生死の世界にあつて、常に衆生の利益を為し、声聞や縁覺のように無益な涅槃に向かおうとはしない。永遠にこの世界に留まり、衆生救済に奔走する金剛薩埵は、大智の故に生死に染まらず、大悲の故に涅槃に赴かない。これを無住處涅槃という。

般若及方便

智度悉加持

金剛欲明妃菩薩

諸法及諸有

一切皆清淨

金剛薩埵がどのように無住處涅槃を得たかといえば、般若の智慧（ものの本質は空であることを知る）と方便（適切な方法論）をもつて、あらゆる物事や生きとし生けるものごとく加持護念し、全てを皆清淨にしたからである。般若と方便によつて全てを清淨にするという大いなる欲は、欲明妃の境地である。

欲等調世間

令得淨除故

金剛觸明妃菩薩

有頂及惡趣

調伏盡諸有

この大いなる欲によつて世間の罪惡を清め除くゆえに、有頂天から地獄までの迷いの世界全てを、迷いの世界そのままで仏の世界とすることが出来る。この世界のまま仏の世界に触れることは、觸明妃の境地である。

如蓮體本染

不爲垢所染

金剛愛明妃菩薩

諸欲性亦然

不染利群生

この大いなる欲もたらす分別（愛情）は私欲を離れた清淨なものであるゆえに、赤い蓮華の花が、その色によつて汚されるのでは無く美しく輝くように、大いなる欲も分別（愛情）に汚されることなく、愛によつてより良く生きとし生けるものに利益を与えることが出来る。この不染の愛こそ愛明妃の境地である。

大欲得清淨

大安樂富饒

金剛慢明妃菩薩

三界得自在

能作堅固利

この清淨なる大いなる欲によつて、大いなる安樂を感じるようになり、どのようなものも調伏できる大いなる財を得る。この世界のあらゆる場所あらゆる瞬間において、生きとし生けるものを誤りなく確実に利益する。この大いなる精進は、慢明妃の境地である。

次つぎ 後讚ごさん

〔經頭〕金一打。〔讚頭〕發音。願文ある時は一讚鉢三十。



四智漢語しちかんご

鉢十五



心略漢語しんりやくかんご

鉢三十



佛讚ぶつさん

鉢二十四

次つぎ 三陀羅尼さんだらに

夕勤行のみ誦する。〔經頭〕金一打の後、發音。



佛頂尊勝陀羅尼ぶつていそんしたらんぢ

一遍



一切如來心祕密全身舍利寶篋印陀羅尼いっせいじょらいしんひびつせんしんしゃりほうきょういんたらんぢ

一遍



阿彌陀如來根本陀羅尼あびたじょらいこんほんたらんぢ

一遍

次つぎ 至心廻向ししんえこう

『金剛界禮懺』「至心廻向」偈

懺悔さんがい隨喜ずいき勸請げんせい福ふく

願我げんが不失ふし菩提ぼだい心しん

諸佛しよふ菩薩ぼさ妙衆びようしやう中ちゆう

常爲しやうい善友せんにゆう不厭ふえん捨しゃ

離於りよ八難はつなん生無せいぶ難なん

宿命しやくべい住智ちゆうち莊嚴そうげん身しん

遠離えんり愚迷ぐまい具悲ぐひ智ち

悉能しつのう滿足まんそく波羅はら蜜び

富樂ふらく豐饒ほうじやう生勝せいし族しよ

眷屬けんしよ廣多こうた恆熾こうし盛せい

四無しぶ礙かい瓣へん十自しじゆう在さい

六通りくとう諸禪しよせん悉圓しつてん滿まん

如金じよきん剛幢こうとう及普ききゆう賢けん

願讚げんざん回向かいきやう亦如えきじよ是し

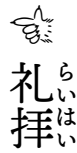
歸命きべい頂禮ていれい大毘たいひ盧遮ろしゃ那佛だふ

次つぎ 退堂たいどう

平等寺御寶號念誦次第

〔經頭〕金一打。勤行次第の頭を出す。

(朝勤行は礼拝から始める・夕勤行は開經偈より)

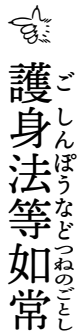


礼拝

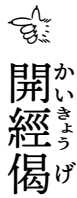
〔經頭〕金二打。〔諸衆〕本尊の御前に対して身を正して合掌し、左の腕に念珠を懸けて五体投地の禮を作すこと三度。普札の真言に曰く、

おん ざんばたぎや
はん なまんなのうきやろみ
はん なまんなのうきやろみ
はん なまんなのうきやろみ

om sarvatathāgatapādāndanam karomi. オーム(聖語)、私はあらゆる御仏の御足に礼拝する。



護身法等如常



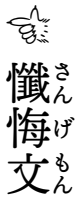
開經偈

一遍

無上甚深微妙法 百千萬劫難遭遇

我今見聞得受持 願解如來真實義

この上なく、極めて深く、素晴らしい仏の教えは、宇宙全体が十億回ほど消滅と生成を繰り返しても(kaṃpakotiśata) 出会うことが難しいという。私は今、人として生まれ、その教えを見て聞いて受けてもつ機会を得ることができた。ついでには仏が意図したとおりに意味を理解できることを願う。



懺悔文

一遍 実叉難陀訳『大方広仏華嚴經』「普賢行願品」偈

我昔所造諸惡業 皆由無始貪瞋癡

從身語意之所生 一切我今皆懺悔

私が遙かな昔より作ってきた悪い行いは、全ていつからはじまったのかも分からない「貪り・怒り・愚かさ」が原因となつて、「身体・言葉・意識」の中で生み出されてきた。私は今、その全てを懺悔する。

三歸依文 三遍

弟子某甲 盡未來際

歸依佛 歸依法 歸依僧

仏の弟子である私は、未来が終わる時まで、仏を信じ、仏の教えを信じ、仏の教えを實踐する出家者の集まり(サンガ)を信じてることを誓う。Skt. Buddhāṃ saraṇaṃ gacchāmi, Dharmāṃ saraṇaṃ gacchāmi, Saṅghaṃ saraṇaṃ gacchāmi.

三竟 三遍

弟子某甲 盡未來際

歸依佛竟 歸依法竟 歸依僧竟

仏の弟子である私は、未来が終わる時まで、仏を信じ、仏の教えを信じ、仏の教えを實踐する出家者の集まり(サンガ)を信じている。

十善戒 三遍 実叉難陀訳『大方広仏華嚴経』「十地品」

弟子某甲 盡未來際

不殺生 不偷盜 不邪淫

不妄語 不綺語 不惡口 不兩舌

不慳貪 不瞋恚 不邪見

仏の弟子である私は、未来が終わる時まで、故意に生きている者を傷つけず、与えられていない物を自分の物とせず、邪な男女関係を持たず、故意に嘘を言わず、余計なことも言わず、悪口も言わず、二枚舌も使わず、出し惜しみせず必要以上に欲しがらず、何があっても怒ること無く、因果応報の道理を信じない考えを持つことはないことを誓う。



中論八不偈

一遍 龍樹造 青目釈 鳩摩羅什訳 『中論』 「觀因緣品」等

不生亦不滅	不斷亦不常
不一亦不異	不來亦不去
能說是因緣	漸滅諸戲論
我稽首禮佛	諸說中道義
因緣所生法	我說即是空
亦為是假名	亦是中道義

anirodham anutpādam anucchadam aśāsavatam/ anekārtham anānārtham anāgamam anirgamam/
 yañ. pratyāsasanutpādañ. prapañcopaśamañ. śivam/ deśayāmāsa sambuddhas tañ vande vadatāñ varam//
 生ずることなく滅することなく、常ならず断ならず、一ならず異ならず、来ることなく去ることなし。よくこの因縁を説き、もろもろの戲論を滅し、諸々の中道の教えを説くブツダに我は礼拝する（※梵文訳…説者中の第一人者たるブツダに我は敬礼する）。

yañ. pratyāsasanutpādañ. śūnyatāñ tañ. pracakṣmahe/ sa prajñaptirupādāya pratipat satva madhyamā//
 因縁によつて生まれた事象、われわれはそれを「空」と呼ぶ。それは仮に設定した表示であり、それこそが中道である。



法身偈

一遍 「縁起法頌」

諸法從縁生	如來說是因
是法從縁滅	是大沙門說

ye dharmā hetuprabhavā hetuñ teṣāñ tathāgato hy avadat, teṣāñ ca yo nirōdha evaṃvādi mahāśramaṇaḥ

「もろもろの事象は縁によつて生じる。如來はその因を説く。この事象はまた縁によつて滅する」。これが大沙門（ブツダ）の教説である。

立義分

一遍 馬鳴菩薩造 眞諦譯『大乘起信論』「立義分」

立義分

摩訶衍者總說有二種云何爲二一者法二
 者義所言法者謂衆生心是心則攝一切世
 間法出世間法依於此心顯示摩訶衍義何
 以故是心眞如相卽示摩訶衍體故是心生
 滅因緣相能示摩訶衍自體相用故所言義
 者則有三種云何爲三一者體大謂一切法
 眞如平等不增減故二者相大謂如來藏具
 足無量性功德故三者用大謂能生一切世
 間出世間善因果故一切諸佛本所乘故一
 切菩薩皆乘此法到如來地故
 諸佛甚深廣大義 我今隨分總持說
 迴此功德如法性 普利一切衆生界

(立義分の解説をそのうち書く)

般若心經

一遍 玄奘譯『般若波羅蜜多心經』

佛說摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中無色無受想行識無眼
 耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至
 無意識界無無明亦無無明盡乃至無老死
 亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得以無
 所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無
 罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢
 想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜
 多是大神咒是大明咒是無上咒是無等等
 咒能除一切苦真實不虛故說般若波羅蜜
 多咒即說咒曰
 揭諦 揭諦 波羅揭諦 波羅僧揭諦
 菩提薩婆訶

大師御宝号及び真言

大師宝号 南無大師遍照金剛

百遍或は千遍

弥勒慈尊 おん まいたれいや そわか

二十一遍

如意輪尊 おん はんどめい しんだまに じんばら うん

七遍

薬師名號

経頭に從つて読誦。各七遍或は三遍

薬師名號 南無薬師瑠璃光如来

薬師大咒 のうぼう ばぎやばてい ばいせいじゃぐろ ばいちよりや

はらばあらんじやや たたぎやたや あらかてい さんみやく

さんぼだや たにやた おん ばいせいぜい ばいせいぜい

ばいせいじゃ さんぼりぎやてい そわか

薬師心咒 おん ころころ せんだりまとうぎ そわか

薬師小咒 おん ばいせいぜい ばいせいぜい ばいせいじゃ さんぼりぎや

てい そわか

本尊脇侍等 経頭に從つて読誦。各三遍。

日光菩薩 おん ろぼにめた そわか

月光菩薩 おん せんだらはらばや そわか

十二神將 おん くびら そわか

本尊界會 南無本尊界會

諸眞言

経頭に從つて読誦。各二遍。

兩部界會 南無兩部界會

金剛界大日 おん ばざらだと ぼん

阿闍如來 おん あましゅびや うん

寶生如來 おん あらたんのう さんばんば たらく

觀自在王 おん ろけいじんばら あらんじゃ きりく

不空成就 おん あぼきや しつでい あく

胎藏大日 のうまく さんまんだぼだなん あびらうんけん

寶幢如來 のうまく さんまんだぼだなん らんらく そわか

開敷華王 のうまく さんまんだぼだなん ばんぼく そわか

無量壽佛 のうまく さんまんだぼだなん さんさく そわか

天鼓雷音 のうまく さんまんだぼだなん かんかく そわか

普賢菩薩 (二切支分生) のうまく さんまんだぼだなん あんあく そわか

觀自在 (世尊陀羅尼) のうまく さんまんだぼだなん ぼだだらんぢ さもりち

ばらだのうきやり だらやさらばむ ばきやばちあきやらばち

さんまえい そわか

文殊菩薩 (法住) のうまく さんまんだぼだなん あべいだびでい そわか

彌勒菩薩 (迅疾持) のうまく さんまんだぼだなん まかゆぎや ゆぎに ゆけい


般若菩薩 おん ぢしり しゅろた びじゃえい そわか


金剛界五佛

胎藏五佛

胎藏四菩薩

 地藏菩薩 おん かかか びさんまえい そわか

 一切佛心 のうまく さんまんだぼだなん あん さらばぼだ ぼうじ
さとば きりだやにやべいしやに のうまく さらば びでい
そわか

 一切菩薩 のうまく さんまんだぼだなん きゃ さらばた びまち
びきらんだ たらまだと にりじやた さんさん か そわか

 持佛本尊 おん まかきやろにきや そわか

 十一面尊 おん ろけいじんばら きりく

 不動明王 のうまく さんまんだ ばざらだん せんだ まかろしやだ
そわたや うんたらた かんまん


不動大呪 のうまく さらば たたぎやてい びやく さらば ぼっけ
い びやく さらば たたらた せんだ まかろしやだ けん
ぎゃき ぎゃき さらば びきなん うんたらた かんまん

 降三世王 おん そんばにそんば うん ばざら うんぱった

 軍荼利王 おん あみりてい うんぱった

 大威徳王 おん しゅちり きやらろは うん けん そわか

 金剛夜叉 おん ばざらやきしや うん

 愛染明王 おん まからぎや ばぞろしゆにしや ばざら さとば じやく
うん ばん こく

 毘沙門天 おん べいしらまんだや そわか

辨財天 おん そらそば ていえい そわか

五大明王

大黒天 だいこくてん
おん まかきやらや そわか

大金剛輪 だいこんじょうりん
のうまく しつちりやぢびきやなん たたぎやたなん あん
びらじ びらじ まきしやきやら ばじり さた さた さら
てい さらてい たらい たらい びだまに さんばんじゃに
たらまち した ぎりや たらん そわか

一字金輪 いちじきんりん
のうまく さんまんだぼだなん ぼろん

佛眼佛母 ぶつげんぶつも
のうぼう ばぎやばとうしゆにしゃ おん ろろ そぼろ
じんばら ちしめた した ろしやにさらばらた さだにえい
そわか

釋迦牟尼 しゃかむに
南無釋迦牟尼善逝 なむしゃかむにぜんぜい

八大高祖 はちだいこうそ
南無八大高祖 なむはちだいこうそ

賓頭盧尊 びんずるそん
南無賓頭盧尊者 なむびんずるそんじや

諸阿羅漢 しよあらかん
南無諸大阿羅漢 なむしよだいあらかん

金剛力士 こんごうりきし
南無金剛力士 なむこんごうりきし

光明眞言 こうみょうしんごん
おん あぼきや べいろしやのう まかぼだら まに はんどま
じんばら はらばりたや うん

大師寶號 だいしほうごう
南無大師遍照金剛 なむだいしへんじょうこんごう

鎮守寶號 ちんじゅほうごう
南無當山鎮守 なむとうざんちんじゅ

 牛頭天王 南無祇園牛頭天王

 自在天神 南無天滿大自在天神

 稻荷明神 南無冠稻荷大明神

 轟大明神 南無轟大明神

 愛宕權現 南無愛宕大權現

 善女龍王 南無清瀧大權現

 金毘羅神 南無金毘羅大權現

 護法善神 南無萬山護法善神


 世出世神 おん ろさやろさや さやらや そわか

 先師尊靈 南無當山代々先師尊靈

 各家尊靈 南無當山檀越先祖代々尊靈

 過去精靈 南無過去精靈


 三界萬靈 南無三界萬靈

 廻向文 『法華経』「化城喻品」偈

願がんにしくどく 普ふ及ぎ於お一い切っさい

我が等とう與よ衆しゆ生じよう 皆かい共ぐ成じよう佛ぶつ道どう

願ねがわくばこ此この功く徳とくを以もつて普あまく一い切っに及およぼし我われ等らと衆しゆ生じようと皆みな共ともに仏ぶつ道どうを成じようぜん

 護身法等如常 (僧分のみ)

三歸禮

実叉難陀訳『大方広仏華嚴経』「浄行品」。(経頭) 金一打し発音。
〔諸衆〕一同、三歸禮文を唱和しながら五体投地すること三度。

自歸依佛

當願衆生

體解大道

發無上意

自歸依法

當願衆生

深入經藏

智慧如海

自歸依僧

當願衆生

統理大衆

一切無礙

退堂